

高知県 南国市議会議員

専門分野／ペット防災・農業政策・食育

斉藤きみこ 市政活動レポート

南国市議会 産業建設委員会
高知オーガニック議員連盟代表
積極財政を推進する地方議員連盟会員

令和8年
(2026)
6月号



編集・発行：斉藤きみこ後援会〒783-0058 高知県南国市白木谷 3100 ☎090-7577-6037

農業

山あいの田畑を みんなで守り 管理する新しい仕組み

高齢化が進む中山間地域の農地をいかに守るか、現場の切実な課題を指摘しました。

Q(斉藤)：「中山間地域等直接支払い制度」は、膨大な事務負担が壁となり執行率が低迷しています。事務負担の軽減を国に強く要望するとともに、農家の資金繰りを助けるため、年明けにずれ込んでいる交付金の支払い時期を早めることはできませんか？

A(農林水産課長)：事務負担は課題であり、国への要望を検討します。支払い時期については、地域が6月受付で対応可能であれば、年内の交付は制度的に可能ですので、ご意向を踏まえ対応します。

Q(斉藤)：担い手不足解消のため、集落全体の農地を組織が一括管理する「**地域まるっと中間管理方式**」※1を導入し、若者や移住者の受け皿にすべきではないでしょうか？

A(市長)：有効な手段の一つであると認識しています。地域が一体となって取り組む気運が高まることを期待し、あらゆる制度を活用して可能な支援を行いたいと考えています。

質問

南国市議会(2026年6月)で、「農業」「食育」「防災」の3分野について質問



【斉藤の視点】 中山間地域は平野部を守る多面的機能も担っています。単なる「負け戦」の整理ではなく、環境保全型農業やアニマルウェルフェアを取り入れた「放牧」など、新しい価値の設計が必要です。

食育

食べることから 地域の未来を考える 学びと実践の食育

法改正により役割が広がった「食育」を、地域の農業を守るための「国民運動」へと引き上げる提案をしました。

Q(斉藤)：改正食育基本法で「食料安全保障の確保」が明記されました。価格の安さだけでなく、地域の農地を守る「価値」を理解する消費行動を促すため、市としてどのような食育を進めますか？

A(保健福祉センター所長)：生産現場を知る体験や生産者との交流を通じ、食育を単なる栄養教育にとどめず、食料の安定供給や持続可能性を啓発する取り組みとして展開していきます。

Q(斉藤)：栽培から給食までを一体的に学ぶ「**南国市版エディブル・スクールヤード(菜園教育)**」※2を次世代教育の柱に据えるべきではないでしょうか？

A(学校教育課長)：五感で学ぶ意義は深いと認識しています。既存のスケジュールへの導入は課題もありますが、本市の実情に応じた特色ある食育・農育のあり方を検討してまいります。

Q(斉藤)：働く世代へのアプローチとして、農水省が認定する「食育実践優良法人」認定取得の支援をし、給食レシピ提供などを通じた地産地消マインドの向上を図る考えはありますか？

A(保健福祉センター所長)：市内事業所への情報提供を行うとともに、関係機関と連携して「大人の食育」の啓発に努めてまいります。

Q(斉藤)：南国市独自の「食育・農育」のあり方、今後の決意をお聞かせください。

A(市長)：南国市は平成17年(2005)に全国に先駆けて「食育のまちづくり条例」※3を制定したフロンランナーです。栽培から給食までを一体的に学ぶ「エディブル・スクールヤード(菜園教育)」の理念も参考に、「食といえば南国」と言われるよう、条例の再定義も含め、充実した食育活動に取り組んでまいります。



【斉藤の視点】学校給食は「生きた教材」です。アメリカの「エディブル・スクールヤード(校庭の菜園)」を参考に、栽培から給食までを一体的に学ぶ南国版の教育モデルの構築を提案しました。

防災

ペットと一緒に 安心して避難できる 仕組みづくり

20年来ライフワークとして取り組んできたペット防災。行政の責務としての新たな段階を問いました。

Q(斉藤)：令和7年6月(2025)の防災基本計画修正により、ペットの受け入れは「被災者支援」の観点から行政の責務となりました。避難所での「逃げ遅れ」を防ぐため、ペットとの同室避難・別

室避難といった事前のゾーニング(区分け)計画はどうなっていますか？

A(危機管理課長)：現在の避難所運営マニュアルでは、ペットスペースは屋外がほとんどです。国のガイドラインを参考に、施設の規模や条件を見極め、実行性のある受け入れ体制を整える必要があると認識しています。

Q(斉藤)：全ての避難所での対応は難しいため、特定の施設を「ペット避難の拠点施設」として先行的に指定・整備すべきではないでしょうか？

A(危機管理課長)：前図書館や学校の空き教室など、拠点となりうる施設の確保・指定を目指し、関係部署と連携して検討していきます。

Q(斉藤)：現場で活動できる「ペット防災リーダー」などの専門人材を育成・登録する制度を導入する考えはありますか？

A(危機管理課長)：職員や自主防災組織の方々への研修を通じて育成に努め、混乱を防ぎスムーズな対応を行うための登録制度の推進も進めてまいります。



【斉藤の視点】ペットを理由に避難を躊躇し、命を落とすことがあってはなりません。飼い主という「被災者」の心身の健康を守るため、専門知識を持つ「ペット防災リーダー」の育成と登録制度の推進を強く求めました。

用語解説

※1 地域まるっと中間管理方式

地域の農地を個別の農家ではなく、組織がまとめて一括管理する仕組みです。担い手不足が深刻な中山間地域などで、農家の事務負担を減らしながら、地域全体で効率的に農地を維持・活用するために有効とされています。

※2 エディブル・スクールヤード(菜園教育)

アメリカ発祥の「校庭の菜園」を活用した教育プログラムです。栽培から調理、給食までを一体的に体験することで、食べ物の循環や命のつながりを学ぶ「生きた教材」としての食育・農育モデルを指します。

※3 南国市の食育のまちづくり条例

国の食育基本法と同じ平成17年(2005)に制定されました。この条例では、以下の6つを施策の柱としています。

- 保育所・学校等での食育指導
- 生涯にわたる学習機会の提供
- 食育に関する研究と成果の公表
- 家庭・地域での取り組みや交流
- 地産地消の奨励
- 産業界・公的機関との連携

高知オーガニック議員連盟活動

第4回 高知オーガニック議員連盟総会

食と農から地域を創る

令和8年(2026)7月11日、斉藤さみこが代表を務める「高知オーガニック議員連盟」の第4回総会および勉強会を開催しました。当日は県内の市町村・県議会議員に加え、県外からも志を同じくする方々にご参加いただきました。また、国会会期中にもかかわらず、中谷元衆議院議員と広田一参議院議員がご列席くださり、温かい激励をいただきました。

代表挨拶では、私から厳しい農業現場の現状や、食料安全保障の観点強化された「食育基本法」改正の意義についてお話ししました。続く勉強会では、CPP ジャパン代表の本田恵久氏を講師に迎え、フランス・ドルドーニュ県でのオーガニック給食導入事例を学びました。知事が主導した地域を守るための政策が、いかに経済の地域循環投資として成功したかという



お話は、南国市の未来を考える上でも大変示唆に富むものでした。

意見交換では、国内の先進事例にも触れつつ、子供たちの

健康や生物多様性の保全について議論が白熱しました。一方で、専門的な知見を持つコーディネーターの不足や、行政担当者の異動による属人化、多忙な教育現場の現状など、実現に向けた具体的なハードルも浮き彫りになりました。

しかし、私たちの命と食は切り離せません。食を通じて子供たちが地域に誇り(シビックプライド)を持ち、環境に目を向けることは、計り知れない教育効果を生むはずです。今年度は信州や埼玉の議連との交流、先進地視察も予定しています。まずは「知ること」から一歩ずつ、理想の食と農の実現に向け段階を踏んで取り組んでまいります。

高知オーガニック議員連盟とは？

議連名に「オーガニック」と表現していますが、それにこだわらず、地元の農産物を学校給食に活用することや地産地消の推進を目的として、令和5年(2023)7月に発足した県・市町村議員による超党派の組織です。官民の調整役としてオーガニック給食の実現に向けた政策提言を行っています。

代表(会長)は斉藤さみこが務めています。

積極財政議連活動

強い経済が地方を救う

高市早苗 × 藤井聡スペシャル対談
国と地方のあるべき姿を探る

斉藤さみこは、「積極財政を推進する地方議員連盟」に所属し、デフレ脱却と地域経済の活性化を目指しています。

●**新自由主義からの脱却**：短期的な収益のみを追うのではなく、30～40年後の未来を見据えた戦略的投資を重視しています。

●**危機管理投資の重要性**：防災、食料安全保障、少子化対策といった分野への大胆な投資こそが、結果として雇用と所得を増やし、税収増に繋がるという「経済成長の好循環」を信条としています。

●**地方の声を国へ**：現場の状況に即した、持続可能な食の生産や環境保全に繋がる財政出動を国に要望していく活動を続けています。

高市早苗首相が自民党政調会長だった、令和4年(2022)7月に土佐市で開催された、高市早苗氏と藤井聡氏のスペシャル対談。斉藤はこのイベントで、司会を務めさせて頂きました。この時の学びを議会活動に活かしています。



●**対談の核心**：「日本は財政破綻しない」「積極財政で地方を救う」というテーマで、国と地方のあるべき姿が議論されました。

●**食料安全保障への視点**：斉藤は、高市氏らが掲げる「供給力を強化するための投資」が、農業現場の実情(中山間地域の疲弊など)と乖離しないよう、現場の声を政策に反映させることの重要性を再認識しました。

●**マクロ経済の理解**：藤井氏による「現代貨幣理論(MMT)」の講演を通じ、地方議員として経済の仕組みを正しく理解し、南国市の財政運営に戦略的な視点を持つことの重要性を学びました。



コラム

齊藤きみこの
ライフワーク
Lifework with Dogs

1

ドッグトレーナーとしての30年

市議会議員としての顔とともに、私は30年にわたりドッグトレーナーとして活動し、現在はペット専門学校の校長や環境省のプロジェクト講師も務めています。

現場で培った専門性を市政に活かし、単なる動物愛護を超えた「動物福祉」の実現と、飼い主とペットが共に助かる社会づくりに取り組む、私のライフワークをご紹介します。

飼い主の知識向上こそが「動物福祉」の鍵

私は30年にわたり、保健所での保護犬トレーニングや飼い主への指導を続けてきました。その中で確信したのは、条例を厳しくしたり譲渡会を増やすこと以上に、**飼い主が専門知識と責任を持って動物を迎え入れられる「教育」こそが重要である**ということです。単に「命を救う(動物愛護)」だけでなく、譲渡されたその先で犬と人が幸せに暮らせる「動物福祉」の質を高めなければなりません。知識不足によるトラブルや飼育放棄を防ぐため、「譲渡後のフォロー」と「**飼い主教育**」の普及こそが、**真の殺処分ゼロへの道**であると考えています。



高知県のしつけ方教室

習性と個性に寄り添う「双方向」のトレーニング

私のトレーニングは、叱ったり力で押さえ込んだりする強制的な訓練ではありません。小型犬のチワックス、シーザーから大型犬のレトリバー、超大型犬の土佐闘犬、レオン・ベルガーまで多様な犬種と暮らしてきた経験を活かし、**犬の習性や心理を正しく理解する「双方向のコミュニケーション」**と日頃の接し方を大切にしています。

例えば、吠えたり噛んだりする問題行動も、原因は何か？こちらの対応をどうすべきか？を考えて対処することで根本的な解決へ向かうこともできます。

まずは、生後2ヶ月から4ヶ月の頃の**社会化期※1**における、様々な刺激に慣らす**馴致(じゅんち)トレーニング※2**を重視し、将来怖がったり過剰反応を抑えることで、人間社会でストレスなく順応できるようサポートしています。

高知ならではの課題「猟犬・野犬」との共生

高知県は狩猟が盛んな土地柄、保護される犬に**猟犬タイプ**が多いという特徴があります。彼らは優れた運動能力を持っていますが、家庭犬としての順応には専門的な知識が必要です。私は現在、『環境省・人と動物の共生パートナーシッププロジェクト「つなぐ絆・つなぐ命」ロイヤルカナンPROactive(プロアクティブ)プログラム』の一環として、全国に先駆けて高知県で実施された「保護犬の譲渡促進プログラム」の講師を務めています。現場の職員の方々と連携し、「高知の山や森で育った犬たち」と人がいかに共生していくか。行政のルールと市民の実情の間にある乖離を埋めるため、橋渡し役として活動が続けています。

ドッグトレーナーの視点で築く「ペット防災」

これら30年培った専門性は、私の現在の最優先課題である「**ペット防災**」政策に直結しています。災害時、飼い主がペットを連れて躊躇なく避難できるように、平時からのしつけと、行政側の受け入れ体制の両方が不可欠です。「被災した人と動物が共に助かる社会」の実現は、ドッグトレーナーとして現場を見続けてきた私の使命です。

今年6月に、「飼い主とペットのための災害対策指導者研修会」(主催：公益社団法人日本愛玩動物協会)を受講、修了しました。防災士、愛玩動物飼養管理士、そしてこの研修で改めて専門性を持って、すべての市民が安心して暮らせる街づくりをライフワークとして追求し続けたいと思います。



高知県総合防災訓練・
地域防災フェスティバル
左は濱田省司高知県知事

用語解説

※1 社会化期

見聞きするものや他者を受け入れる力を育む重要な成長期間のことを指します。

※2 馴致(じゅんち)トレーニング

「馴致」とは、動物などを新しい環境や人間の指示に慣れさせ、信頼関係を築く基礎訓練のことをいいます。

齊藤きみこ

上級愛玩動物飼養管理士、防災士
NPO法人JAPDT(日本ペットドッグトレーナーズ協会)正会員
一般財団法人J-HANBS マスターインストラクター
ヒトと動物の関係学会 会員

～人と自然が調和する社会の実現に向けて～

循環型山地酪農実践牧場に嫁ぎ、6人の子育てをしてきた経験、長年地方の動物愛護行政に関わってきた経験を土台として、自然の循環や生き物たちとの関わり・農業政策やオーガニック給食・子どもたちの成長や取り巻く環境・そして、女性の社会的立場や貧困問題などに取り組んでいます。

編集・発行：／齊藤きみこ後援会 〒783-0058 高知県南国市白木谷 3100 TEL 088-862-0393 FAX 088-862-0899 anna-hanna@outlook.jp



齊藤きみこ後援会
公式 LINE



齊藤喜美子
Facebook



齊藤喜美子
デジタル名刺